

発行：北九州市認知症支援・介護予防センター
 北九州市小倉北区馬借一丁目7番1号

☎ 093-522-8765

ホームページ
<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/page/ninkai-center/>

認知症地域支援推進員
 中村真理子 松岡由佳 福嶋深幸



- ★企業で313名のサポーター誕生！
- ★認知症カフェのご紹介
- ★「認知症を知る」本の紹介
- ★9月 認知症啓発月間の取組について



313名のサポーターが誕生！(株)ゆめマート北九州



(株)ゆめマート北九州
 代表取締役社長 井上宏春氏



サポーター養成講座の様子。全部で9回、講座を開講しました。
 参加した皆さんは、全員レポートの提出があるそうです。

(株)ゆめマート北九州では、昨年の4月から9回の「認知症サポーター養成講座」を受講していただき、313名のサポーターが誕生しました。代表取締役社長の井上宏春氏にお話を伺いました。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇
 昨年の4月から北九州市との取り組みを強化していく一環として「認知症サポーター養成講座」の受講を始めました。10年前に、たまたま店長として赴任したところは、日本の5年、10年先を行く少子高齢化のまちでしたが、日々の業務に向き合う中で「認知症サポーター養成講座」の知識がとても役に立ったことが念頭にありました。

当初は幹部社員のみを対象と考えていましたが、実際に現場に携わる多くの人に受講してもらうことが、地域に根差した活動に取り組み、ものを売るだけでなく、地域のよりよい生活環境をともに考え、つくっていくという会社の基本方針につながる考え、受講の枠を拡大しました。

北九州市内には、11の店舗がありますが、そのうち門司店では、9月に出張サロン開催の予定があります。今後いろいろな地域活動と、それぞれの店舗が少しずつつながっていったらと思っています。

また、「認知症サポーター養成講座」の受講は、「社会的な人としての立場」を改めて認識する機会でもあったと思います。これからも定期的に講座を開催して、社内のサポーターを増やしていきたいです。

【新しい認知症カフェのご紹介 ～認知症カフェ訪問記～】

『 cafe だんらん 』

開催地：門司区大里本町 3-10-101
生活支援型デイサービス
カフェ・トレだんらん内

開催頻度：毎月第2・第4土曜日
13:00～15:00

利用料金：100円

問合せ：093-382-3455（担当:角川氏）

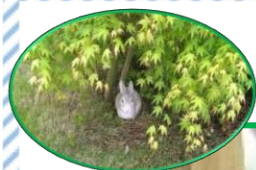


桜が散り、新緑が鮮やかでとてもよく晴れた土曜日の午後訪問。

国道199号線沿いにある「café だんらん」は商業施設に隣接しており、玄関に近づくと、ピアノの音色が響く中、やさしく微笑むスタッフさんが出迎えてくださいました。

平日は生活支援型通所サービスとして運営中ですが、窓から見える眺望やホッとできる空間を利用者さんだけでなく、多くの方に体験してほしい、また介護や認知症について「気軽に相談できる場所にしたい」との思いからカフェを開設されました。

お買い物の帰りやドライブの途中に立ち寄ることもできる駐車場も完備されており、お車でも安心して利用できます。美味しいコーヒーとお菓子をいただきながら土曜の午後を過ごしませんか。



『 カフェ さらくら 』

開催地：八幡西区八千代町9-30
デイサービス さらくら

開催頻度：不定期
10:00～15:00

利用料金：100円

問合せ：093-632-6301（担当：白濱氏）



さわやかな風が心地よい晴れた日に、「カフェ さらくら」をご訪問いたしました。

黒崎の住宅地の高台にある「デイサービス さらくら」。デイサービスのフロアを利用して開催される「カフェ さらくら」は、グループホームや小規模多機能型居宅介護施設に隣接しており、笑顔の素敵なスタッフさんが出迎えてくださいました。この日はデイスタッフの息子さん（小学生）も、カフェの一員として参加されていました。

エレベーターを利用して上がった屋上庭園からは、北九州市のシンボル「血倉山」が一望でき、環境デザイナーがプロデュースした庭園は散策しながら足腰が鍛えられるようにと、1周が32メートル。足裏を刺激する「小石の小道」などの楽しい工夫が施されています。

近隣にお住まいの方をはじめ、介護や認知症についてのお悩みや興味のある方が、気軽に立ち寄れる「カフェ さらくら」で「血倉山」を眺めながら、聞き上手なスタッフさんとお話をしにいらっしゃいませんか？



認知症を知る 本のご紹介



はじめまして。
4月から
認知症地域支援推進員
になりました
福岡深幸（ふくしまみゆき）
です。
お勧め本のご紹介を
させていただきます。



認知症世界の歩き方

著：筧 裕介

「認知症の方が実際に見ている、体験している世界」がスケッチと旅行記の形式で、分かり易く説明されています。まるで海外の街を観光するように、なかなか理解が難しい認知症の方の世界観を「自分ごと」として楽しく体験することができます。色々な方に読んでいただき、共生社会の実現を目指しましょう。

麒麟模様の馬を見た

著：三橋 昭

レビー小体型認知症と診断され、幻視の見える日々が続く著者が、いつか自分が壊れてしまうかもしれない不安から、自身の幻視体験をイラストとともに記録。著者が毎日見ている「幻視の世界」は、これまで考えられていた幻視とは異なる世界が広がっています。温かい仲間背中を押されて、クラウドファンディングの手法で、世に出ました。



認知症のわたしから10代のあなたへ

著：さとう みき

43歳で若年性認知症の診断を受けた著者の診断後の葛藤や、当事者や支援者と出会ったことによる気持ちの変化が綴られています。障害のある息子の子育てから学んだことを生かし、先入観のない子どもの頃に、認知症に関する正しい情報を知ることの大切さを願い書かれた一冊です。先日地元の中学校で講演会もされたそうですよ。

